

語学ビジネス市場に関する調査結果 2010

—2009年度も不況の影響で前年度に引き続き市場規模縮小
独習用語学教材は好調に推移—

【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の要綱にて「語学」に関わるビジネスの市場調査を実施した。

1. 調査対象：外国語学校、出版社、電子辞書メーカー、ソフトメーカー、e-learning事業者、通信教育事業者、語学学習教材販売事業者、資格試験運営団体、留学斡旋業者、通訳・翻訳ビジネス事業者等
2. 調査期間：2010年4月～6月
3. 調査方法：当社専門研究員による直接面談取材及び、電話・FAXによるヒアリングを併用

<語学ビジネス市場とは>

本調査における語学ビジネス市場とは、外国語教室全体市場、幼稚園・保育園向け英語教師派遣市場、書籍教材市場、語学独習用機器・ソフト、電子辞書市場、幼児向け英会話教材市場、通信教育市場、e-learning市場、ソフトウェア市場、語学試験市場、留学斡旋市場、通訳・翻訳ビジネス市場、英語以外の他国語市場（通信・通学）市場を指す。このうち、語学試験市場、留学斡旋市場、通訳・翻訳ビジネス市場は「周辺ビジネス」として定義した。

なお、「電子辞書市場」の市場規模算出方法の変更により、2008年度の同市場規模を680億円から855億円に上方修正したため、過去の市場規模も遡及して修正している。

【調査結果サマリー】

◆ 2009年度の語学ビジネス総市場規模（周辺ビジネス含む）は、前年度比5.8%減の7,394億円に

2008年秋のリーマンショックに端を発した不況の影響による個人の消費意欲の減退や、ユーザー企業の経費削減（語学研修を減らす、翻訳作業の内製化等）等の影響を受け、2009年度の語学ビジネスについて、周辺ビジネス（語学試験市場、留学斡旋市場、通訳・翻訳ビジネス市場）を含めた市場規模が前年度比5.8%減の7,394億円、周辺ビジネスを除いた語学ビジネス市場は、前年度比5.8%減の5,026億円と推計する。

◆ 引き続き市場縮小も、独習用教材の好調等により縮小幅は小さくなる見込み

2010年度は、不景気の影響や2010年4月の語学教室大手の破綻に伴う業界のイメージダウン等により市場は縮小が続くものの、独習用教材の好調や、2011年度からの小学校における英語活動必修化、2010年6月から子ども手当支給といったプラス要因により、縮小幅は2009年度よりも小さい見込みである。そのため、2010年度の語学ビジネス総市場規模は、前年度比2.0%減の7,244億円、周辺ビジネスを除いた語学ビジネス市場規模は、前年度比1.8%減の4,936億円と予測する。

◆ 資料体裁

資料名：「語学ビジネス徹底調査レポート 2010」
 発刊日：2010年6月30日
 体裁：A4判 401頁
 定価：税込み115,500円（本体価格110,000円）

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地：東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長：水越 孝

設立：1958年3月 年間レポート発刊：約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先（当社HPからも承っております <http://www.yano.co.jp/>）

（株）矢野経済研究所 営業本部 広報宣伝グループ TEL：03-5371-6912 E-mail: press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
 本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報宣伝グループ迄お問合せ下さい。

【調査結果の概要】

1. 市場概況

2009年度の語学周辺ビジネス（語学試験市場、留学斡旋市場、通訳・翻訳ビジネス市場）を含めた語学ビジネス総市場は、前年度比5.8%減の7,394億円、周辺ビジネスを除いた語学ビジネス市場は、前年度比5.8%減の5,026億円であった。

2008年秋頃からの不況に伴う個人の消費意欲の減退や、法人の経費削減志向の強まりにより、語学ビジネス市場において大きなウェイトを占める語学スクールの利用者が減少している。また、通訳・翻訳ビジネス市場もユーザー企業の業績悪化により縮小となっている。また、その他の市場についても、一部（具体的には、パソコン用ソフトウェア市場、語学独習用機器・ソフト市場、幼稚園・保育園向け英語講師派遣市場、e-learning市場等）を除きほぼ同じ傾向となっている。

更に、堅調に推移していた幼児・子供英会話教室市場も、少子化や不況の影響が出ており、2006年度をピークに縮小が続いている。

上記から、総市場規模は2008年度に引き続き縮小となっている。

2. 注目すべき動向

2009年度は、語学ビジネス市場全体は縮小となったが、以下の市場は拡大もしくは堅調に推移していることが特筆すべき点として挙げられる。

- ・ヒット商品の出現により、パソコン向けソフト市場が前年度比130.8%増の15億円、語学独習ハード市場が前年度比31.5%増の163億円と非常に好調であった。
- ・少子化に伴う幼稚園間での競争激化や、早期英語教育熱の高まりから、幼稚園・保育園向け英語講師派遣市場は、前年度比10.0%増の22億円規模と堅調に推移した。
- ・不況の影響で企業・団体の研修予算が削られていることから成長スピードは鈍化しているものの、コスト削減を目的とした、集合研修からeラーニングへの切り替え需要もあり、e-learning市場の規模は前年度比3.4%増の30億円と、微増となった。
- ・2008年度以降プリスクールの新設件数が減少しているが、不況でも一定数の富裕層は存在すると見られ、2009年度のプリスクール市場は前年度比2.0%増の250億円となった。

3. 将来展望

2010年度は不景気の影響はやや弱まっていると見られるものの、2010年4月の語学教室大手事業者破綻による業界のイメージダウンが危惧される。2011年度からの小学校における英語活動必修化、2010年6月からの子ども手当支給といったファクターは、市場規模を拡大させるほどの影響力はないと見られるものの、市場縮小を緩和する可能性はあると予測する。

よって、語学周辺ビジネスを除いた語学ビジネス市場は前年度比1.8%減の4,936億円、周辺ビジネスを含めた語学ビジネス市場は、前年度比2.0%減の7,244億円となると予測する。

しかしながら中長期的に見ると、グローバル化に伴うビジネスシーンにおける外国語学習ニーズの高まりや、法人の翻訳・通訳需要の高まり、2013年からの高校英語授業のオールイングリッシュ化（2009年12月公表の高校学習指導要領案による）といった市場を活性化させるファクターは存在し、長期的には拡大が見込まれる。

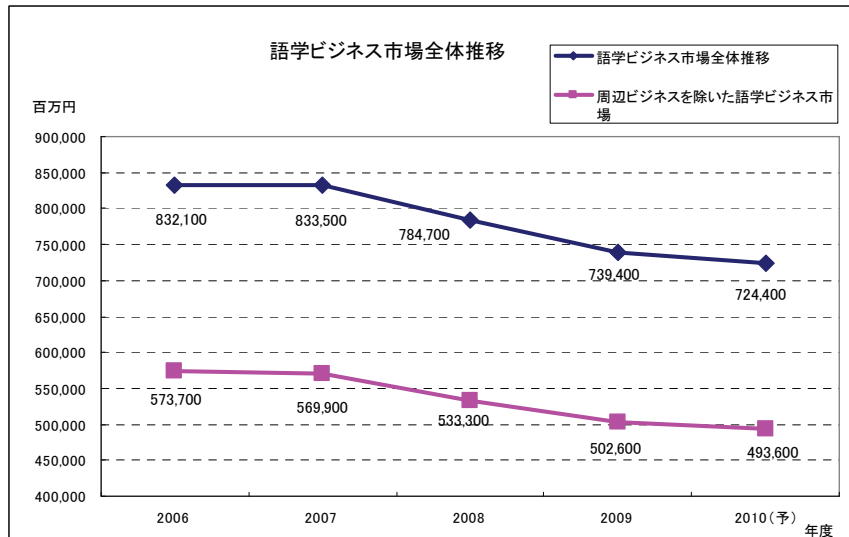
表1: 語学ビジネス市場分野別市場規模

●本調査における語学ビジネス市場の分類

分類	詳細	09年度市場規模 (百万円)	前年度比
■ 語学スクール			
外国語教室全体市場	英語・多言語を含めた全体の外国語教室市場	304,700	-5.0%
成人向け外国語教室市場	外国語教室全体市場のうち、成人向けの教室	185,000	-7.5%
{ ビジネスニーズ市場	ビジネスを目的に外国語教室に通うユーザーを対象とした売上高	106,000	-5.9%
{ 趣味・教養ニーズ市場	趣味・教養や留学準備等、ビジネス以外の目的で外国語教室に通うユーザーを対象とした売上高	79,000	-9.6%
{ マンツーマンレッスン市場	1対1の講座	30,000	-6.3%
{ グループレッスン市場	1対2以上の講座	155,000	-7.7%
幼児・子供英会話教室市場	外国語教室全体市場のうち、幼児・子供向けの教室	94,700	-1.6%
プリスクール市場	外国語教室全体市場のうち、プリスクール	25,000	2.0%
幼稚園・保育園向け英語講師派遣市場	幼稚園・保育園を対象に、課内/課外プログラムとして英語レッスンの提供を行うサービス	2,200	10.0%
■ 学習教材			
書籍教材市場	書籍による語学学習用教材全体市場	42,200	-4.1%
教科書	中高生向け英語教科書	5,400	0.0%
学生向け学習参考書	補習用・受験用の英語学習参考書	14,800	-2.6%
辞書	紙媒体による諸外国語辞書	6,900	-2.8%
資格対策教材	諸外国語の資格試験対策用教材	1,700	-2.3%
ビジネス系教材	ビジネス向けの諸外国語一般書籍教材	1,800	-14.3%
テレビ・ラジオ講座用教材	NHKのテレビ・ラジオ語学講座(諸外国語)用テキスト	11,600	-7.2%
語学独習用機器・ソフト	語学学習専用機器及びセット販売による教材	16,300	31.5%
電子辞書市場	電子辞書機器	74,000	-13.5%
幼児向け英会話教材市場	幼児向けに特化したセット販売による英語教材	26,200	-14.9%
通信教育市場	添削を行う通信講座全体の市場	28,800	0.0%
社会人向け通信教育	通信教育市場のうち、社会人向け通信教育	10,300	-4.6%
学生向け通信教育	通信教育市場のうち、受験用・学生向け通信教育	18,500	2.8%
e-learning市場	PC上で学習する語学学習用e-learning	3,000	3.4%
ソフトウェア市場	語学学習を目的としたパソコン・ゲーム機向けソフトウェア	5,200	-16.1%
ゲーム機向けソフトウェア	ゲーム機向けの語学学習用ソフトウェア	3,700	-33.3%
パソコン向けソフトウェア	パソコン向けの語学学習用ソフトウェア	1,500	130.8%
■ 周辺ビジネス			
語学試験市場	各言語の資格試験等の総市場	17,600	-1.7%
留学斡旋市場	留学ビジネス・留学エージェント事業の総市場	13,200	-26.7%
通訳・翻訳ビジネス市場	通訳・翻訳に関わるビジネスの総市場	206,000	-4.4%
■ 多言語			
英語以外の他国語市場(通信・通学)		9,800(4言語計)	-0.5%
中国語	左記4言語について、通信分野及び通学分野に関してのみ別途取り上げ、記述を行っている。	3,750	0.0%
韓国語(ハンガル)	なお、語学ビジネス全体から見た場合、当市場は、「外国語教室全体市場」及び「通信教育市場」に含まれるため、当市場自体は語学ビジネス全体市場規模には含んでいない。	2,550	0.0%
フランス語		1,900	-1.3%
ドイツ語		1,600	-1.5%
■ 語学ビジネス総市場 (周辺ビジネス除く)		502,600	-5.8%
■ 語学ビジネス総市場 (周辺ビジネス含む)	多言語以外のすべてのカテゴリを合わせた語学ビジネス総市場	739,400	-5.8%

矢野経済研究所推計

図1. 語学ビジネス市場規模推移



矢野経済研究所推計

注1: (予)は予測値

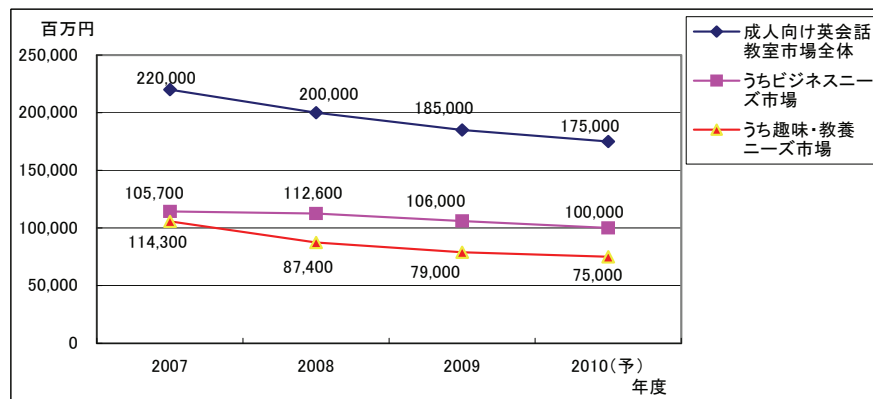
注2: 周辺ビジネスとは、語学試験市場、留学斡旋市場、通訳・翻訳ビジネス市場をさす。

注3: なお、「電子辞書市場」の市場規模算出方法の変更により、2008年度の同市場規模を680億円から855億円に上方修正したため、過去の市場規模も遡及して修正している。

注4: 事業者売上高ベース

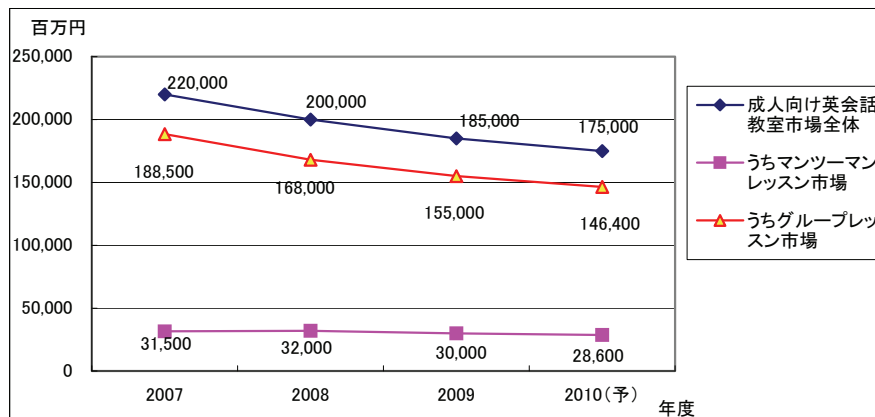
図2. 語学ビジネス市場の中心を占める成人向け外国語教室市場の
ニーズ別/レッスン形態別市場規模推移

【ニーズ別市場規模推移】



矢野経済研究所推計

【レッスン形態別市場規模推移】



矢野経済研究所推計

注5: (予)は予測値

注6: 事業者売上高ベース